

カトリック河原町教会だより

2017年3月

「ユスト高山右近 列福式ミサ」開催

2月7日正午から、大阪城ホールで「ユスト高山右近列福式ミサ」が行われました。ミサの主司式は、教皇代理の列聖省長官アンジェロ・アマート枢機卿でした。右近帰天の地マニラからは、大司教ルイス・アントニオ・タグレ枢機卿が参列。総参加者数は約1万人でした。ミサは30名の司教と、約300名の司祭の共同司式で、東京教区岡田武夫大司教、列聖推進委員長大塚喜直司教はじめ、日本の司教団が祭壇に揃いました。

韓国からは6名の司教、その他カンボジア、ベトナム、東ティモールなどからも司教が参列して、約3時間にわたるミサは主にラテン語で行われ、世界中にインターネット中継されました。また、列福を宣言する教皇書簡よって、殉教者高山右近の記念日は2月3日になることも明らかにされました。

ミサでは大塚乾隆助祭が福音朗読を担当。河原町教会からの参加者は信徒約100名、聖歌奉仕者は46名で、遠藤政樹さんが聖歌隊指揮者として、桑山彩子さんがオルガニストとして奉仕しました。(編集委員会)



十字架上に教皇紋章・右近肖像画・右近列聖推進マーク



写真提供:京都教区広報委員会

ガブリエル 大塚乾隆助祭 司祭叙階式

河原町教会出身、大塚乾隆助祭の司祭叙階式が行われます。神への心からの感謝をもって集い共にお祝いしましょう。

2017年3月20日(月・祝)10:30

カトリック河原町教会聖堂



あれから20年

1997年に、ここ京都で地球温暖化対策に関する国際的な約束、「京都議定書」が採択されてから、20年が経とうとしています。京都で福音を生きている私たちも、この約束を、さらに2015年の「パリ協定」を、他人事としてではなく、自らが果たさなければならぬ約束として受け止めたいと思います。

環境問題に取り組むことは、神への愛、造られたものすべてへの愛を生きることだと言えます。私たち人間は、最後に造られました。私たちが生きていくための環境がすべて整ってから、この地球に登場しました。私たちは、地球環境の優しさによって、そこに示された神の深く、大きく、持続する愛によって、日々生きていくことができます。毎日、この神の愛に感謝すること、この地球で生きていけるという大きな恵みに感謝することで、神への愛を深めていきたいと思ひます。

便利で快適すぎる生活をしている私たちは、自然環境の優しさに甘えてきました。甘えずぎ



洛東ブロック担当 一場 修 神父

て、環境を傷つけてきました。その結果、地球は苦しんでいます。地球の苦しみは、世界の貧しい人々の苦しみとなっています。これから生まれてくる命の苦しみとなります。私たちは、貧しい人々を愛するという掟を与えられています。地球を大切にすることで、貧しい人々への愛を実践していきたいと思ひます。地球への、すべての命への愛を実践することで、私たちの愛を大きく、広くしていきたいと思ひます。そして、この愛が身近なところから始まることを忘れず、地道に歩んでいきたいと思ひます。

今年は、洛東ブロックとして、環境問題をテーマとした教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』を学びたいと思ひます。京都議定書20周年の今年、洛東ブロック共同体として神の愛を証しする新たな歩みを始められたらと思ひます。

ジョット画「小鳥への説教」

